

## ■■■ 目 次 ■■■

マダラの集団構造解析から資源の「切れ目」を探る 佐久間啓（資源管理部・資源生態グループ）	..... 3
安定同位体比による日本海陸棚海域における食物網構造の解析 木暮陽一（資源環境部・浅海環境グループ）	..... 7
無給餌期間がキジハタ畜養魚に与える影響 清水健*・竹内宏行（資源生産部・資源増殖グループ） *現 増養殖研究所 ウナギ種苗量産研究センター・量産実証グループ	..... 11
2018年度本州日本海側河川に回帰したサケの小型化 飯田真也（資源管理部・沿岸資源グループ）	..... 15

### 表紙の解説

#### 日本海西部海域でのトロール調査風景

写真撮影 上田祐司（資源管理部・資源生態グループ）

解説 佐久間啓（資源管理部・資源生態グループ）

日本海西部海域において当水産研究所が実施しているトロール調査（ズワイガニ等底魚資源調査）では、2000年代以降、島根県沖を中心に多くのマダラが採集されます。写真手前側のかごの中には体長70cmを超えるような大型個体（5歳以上）が、デッキ上に散らばる漁獲物には体長40cm程度の若齢魚（2～3歳）も見られます。日本海のマダラは、北部（青森県～石川県）を中心に年間3000トン前後の水揚げがある一方、日本海西部（福井県～島根県）でも漁獲されており、年によっては1000トン近い水揚げがあることは、あまり知られていません。マダラの資源状態をよりの確にとらえるためには、マダラの集団が日本海でどのように分布しているかを把握する必要があります。